

↓ 2基目のブレード設置作業。大きな風車がゆっくりとつり上げられる



風車の概要

風車の直径 9.2 m

支柱の高さ 約7.0 m

支柱+ローターの高さ
11.6 m

建設基数 2.1基

合計出力 50,400kw

年間予想発電量
約1億kw
(30,000世帯相当)

風力発電設備

三菱重工業製

※風車は風速7.0mに耐えられる設計で、3秒で発電を開始、2.5秒を超えると停止する

→毎床牧場から出水方面を望む。右側には建設中の風車があり、左下にはたくさんのブレードが仮置きされている



この作業風景は、町内のいたるところから見る事ができ、遠くは阿久根市内からも確認することができました。ブレードの設置がすべて終わるころには、長島の風景も一変していることでしょう。

九州電力と九電工が出資する長島ウインドヒルが、長島本島の丘陵地帯に建設を進めている風力発電のブレード（羽）の取り付けが始まりました。風車の直径、出力ともに国内最大級です。10月14日に1基目の作業が行われ、25日には、毎床牧場付近で2基目のブレード設置作業が行われました。巨大なブレードが3本組み合わされ、約60トの物体が大型クレーンで地面からゆっくり吊り上げられ、約2時間かけて高さ70メートルほどのところにある支柱最上部の発電機部分に取り付けられました。